

重要文化的景観 —重要な構成要素の紹介7—

植物地名のアイヌ伝承地（二風谷区域：アイヌの伝統を伝える山野と集落の景観）

にぶたに湖左岸に整備されている歴史の散歩道（遊歩道）から、右岸側の山林にあるオプシヌプリ（穴があく・山）やウカエロシキ（互いに・上・で・立ちあがる：通称クマの姿岩）のほか、マッターホルンに似た尖塔状の岩山であるスルクウンコツを眺望できます。

スルクウンコツは毒矢を射ってくる者のアイヌ伝承（下記の伝承を参照）がある一方、スルクはトリカブトを指す植物名でもあります。一般にアイヌ語地名はその場所の植生を表すことが多いので、「トリカブト・ある・跡」という語意も考えられます。平取町にはトリカブトの採集地と思われるスルクと名のつく地名が幾つかあり、川向地区（沙流川左岸）には旧小字名としてスルクウンピピ、スルクン、スルクウシ等の地名が伝えられています。

現在、スルクウンコツにほど近いイオルの森では、アットウシ（樹皮の織物）の原料であるアツニ（オヒョウニレ）が植樹され、持続可能な森林利用を目指す取り組みが進められています。アツニや仕掛け弓に用いるスルク（毒・トリカブト）など、アイヌの有用植物のを知ると、アイヌ伝承地めぐりやアイヌ民具を知る楽しみが増します。（長田佳宏）



二風谷の山林や川辺には、幾つものアイヌ伝承地やチャシ跡が残されており、歴史の散歩道とその周辺を散策しながら楽しめる。

スルクウンコツの言い伝え

大昔、沙流川がこのスルクウンコツのすぐ下を流れていた時代に、アイヌたちが舟に乗ってその岩山の下を通ると、えたいの知れない者が山の上から毒矢を射ってよこした。その毒矢に当たって度々アイヌが死ぬことがあったということです。それでこの細く、高く尖った岩山の北側のくぼ地をスルクウンコツと名づけられたと聞きました。

（萱野茂 1984『沙流川沿いの地名』より）

伝承の文中では「岩山の北側のくぼ地」の名称とされているが、この「尖った山」そのものをスルクウンコツとする説明もある。



上記写真の拡大。国有林の針広混交林にある岩山である。このような特異な形状の岩塊に対してアイヌ伝承が語られることが多い。